

（ 山添村の春日神社「申祭り」 ）

「申祭り」は、12月の庚申の日に山添村の春日神社で行われており、平成17年は14日に行われた。同社は奈良の春日大社が本社で、706年6月21日、神々が鹿島を立て伊賀地区に至り、春日に来られたといわれている。

この祭りは、秋の実りに感謝し、年越しを迎える地元の人の安泰を願うもの。

神事は正午から始まり、村長、県議、村議、各大字区長、氏子総代などが参加し、神官の祝詞奏上や玉串奉奠が終わると、直会となる。

直会は当屋の大字の若衆二人が和服袴姿に正装し、左右に分かれ、手籠に入れた小椀にお神酒を注いで回ることから始まる。酒肴は、串肴（リング、竹輪、かまぼこ、里芋、こんにゃくを刺したもの）。お供えの大きな真鯛は出席者にお下がり物として配る。

直会と同時に、拝殿前に設えられた檜造りの舞台で能、狂言が始まる。最初の演目は、能楽でも神聖な謡曲といわれる「翁舞」、続いて「榊舞」、狂言「伯母ケ酒」が奉納された。奉納したのは、能や狂言の一座である「菅生春楽社」（金春流）で山添村の菅生地区居住の人たちが明治25年に結成した。

山添村では昔から神社の祭りや、めでたい時の宴では「謡宴」という風習があり、この春楽社を生み育てているという。

この祭りが済むと、村人たちは新年へ向けての準備にはいる。
(上田)



翁 舞



榊 舞

これからの主な催し

〔主な行事〕

● 1月15日（日）

西大寺 大茶盛式

大茶盛初釜。広間に色鮮やかな毛氈を敷いて客席とし、西大寺の僧侶が大茶碗に茶を点でて参会者にすすめる。

近鉄大和西大寺駅南口から徒歩3分

● 1月23日（月）

大安寺 光仁会 がん封じささ酒まつり

早朝から法要、がん封じ祈禱、笹酒の接待が行なわれる。太い竹筒に入れた酒を青竹の杯で受ける笹酒は、ガン封じに薬効があるといわれている。

JR・近鉄奈良駅 大安寺・白土町・シャープ
前行バス10分 大安寺下車徒歩10分

● 2月3日（節分の日）（金）

元興寺 節分柴燈護摩会

節分行事の一つ。本堂に不動明王を遷座して僧侶による供養が行われ、続いて本堂前に山伏により柴燈大護摩供が修される。そのあと、護摩壇木を渡し、火をおこして「火渡り」の行を行い、修験者の法力によって参拝者も年越し厄除けを願って渡ることが出来る。

JR奈良駅から徒歩20分、近鉄奈良駅から徒歩10分